

教育ジャーナル

The Journal of Education

特集 幼児教育と学校

無料

スタートカリキュラム、 やってみよう!

適切な援助で、子供はどんどん伸びていく

第2特集 コロナ禍の学校教育

それでも、授業改善は着々と進められていた!

令和3年度全国学力・学習状況調査より

NEWSFLASH 給特法を巡る小学校教員の訴訟——
さいたま地裁は残業代の支払いを認めず



令和3年度 奄美市立住用小学校の取組 「リュウキュウアユ保護活動」

島ぬ宝 守る命 私たちに今できること

教えてくださった先生方 ※敬称略
久米 元 (鹿児島大学)
米沢 俊彦 (環境技術協会)
又野 峰蒼 (養殖専門技術者)

知る 講義「リュウキュウアユと奄美の川の生き物」

守る 観察学習 in 役勝川

世界 自然 産 連

こんなこと伝えたいよ

伝える

あまみ FM 77.7 出演中 9月10日まで

時期	活動内容
7月	リュウキュウアユの保護観察活動(役勝川にて個体を多数確認)【知る・守る】 ※ 講師(鹿児島大学, 環境技術協会, 養殖専門技術者) 子ども朝日新聞掲載(保護活動の取組の紹介)【伝える】
7月～9月	全校児童による地元のラジオ出演 (保護観察活動の感想や自分の考えをまとめた作文発表)【伝える】
9月	全国月刊誌「コロンブス」9月号掲載(保護活動の取組の紹介)【伝える】
10月	鹿児島県主催「世界自然遺産登録記念式典」での児童代表の発表【伝える】
11月	学習発表会での保護活動の取組の発表【伝える】 産卵場所の整地作業【知る・守る】 ※ 講師(養殖専門技術者)
12月	全国版パンフレット「職員室」12月号掲載【伝える】
1月	全国月刊誌「教育ジャーナル」1月号掲載(保護活動の取組の紹介)【伝える】
2月	住用地区「世界自然遺産登録記念式典」での児童代表の発表【伝える】



リュウキュウアユ

Plecoglossus altivelis ryukyensis



↑水がきれいすぎ、石とアユが同化して見にくい
が、拡大してみると水面にたくさん見える

リュウキュウアユ保護活動



透明度抜群の川でリュウキュウアユを観察し、整地作業を行う



講師の先生を招いてリュウキュウアユ観察前の講義を聞く



役勝川に生息する生き物をみんなで観察

保護活動をみんなで広げる

本校は、これまでのアユの保護活動が評価され、2021年5月に「第75回愛鳥週間2021年度野生生物保護功労者表彰」（環境省と日本鳥類保護連盟が主催）で、文部科学大臣賞を受賞しました。

また、7月には世界自然遺産の登録も決まって、奄美大島にはこれまで以上にたくさんの観光客が訪れるようになりました。しかし、観光客が増えることで環境の保全問題も懸念されています。さらに、地球温暖化による生息数の減少など、これから考えていかなければならない問題があります。

そこで、子供たちに保護活動が環境を守ることにつながり、その維持と拡大が奄美大島の自然を守るために必要であることを感じてほしいと思いました。

これまでも、講師の先生方を招いてアユの生態について「知る」ことと、観察学習や産卵地の整地作業で「守る」ことを行ってきました。しかし、子供たちの思いを「伝える」ことが十分でなかったように思いました。

そのため、21年の7月と9月に地元のラジオ局・あまみFMに子供たち全員が出演し、観察学習で感じたことや思ったこと、伝えたいことなどを作文にまとめて発表することにしました。

どの子も念入りに文章を推敲し、繰り返し読む練習をして、本番に臨むことができました。放送当日は、地域の方や保護者の方もラジオに耳を傾け、子供たちの頑張りを感

島ぬ宝 守る命 私たちに今できること ～「リュウキュウアユ」保護活動の取組



2021年7月に世界自然遺産に登録され、式典で活動を発表

絶滅が危惧されているリュウキュウアユの保護活動に取り組む児童たち

絶滅危惧種「リュウキュウアユ」の保護に取り組み、
第75回愛鳥週間2021年度野生生物保護功労者表彰で
文部科学大臣賞受賞。観察学習で知り、整地作業で守り、
自然と人との共生を考えながら「伝える」を実践中。

写真 / 奄美市立住用小学校 文 / 奄美市立住用小学校教頭 所崎陽

観察学習、整地作業から

全校児童19名の住用小学校は、鹿児島市から南へ約400kmに位置する奄美市住用町にあります。山々に囲まれた校区内には3つの大きな川とマングロープ原生林があり、ここだけに住む希少な生き物が生息する、自然豊かな地区です。

本校では、2006年から絶滅危惧種の魚「リュウキュウアユ」の保護活動に取り組んでいます。学校近くにある役勝川や住用川などが主な生息地で、本州のアユよりうるこが少々大きく、体は小さめです。

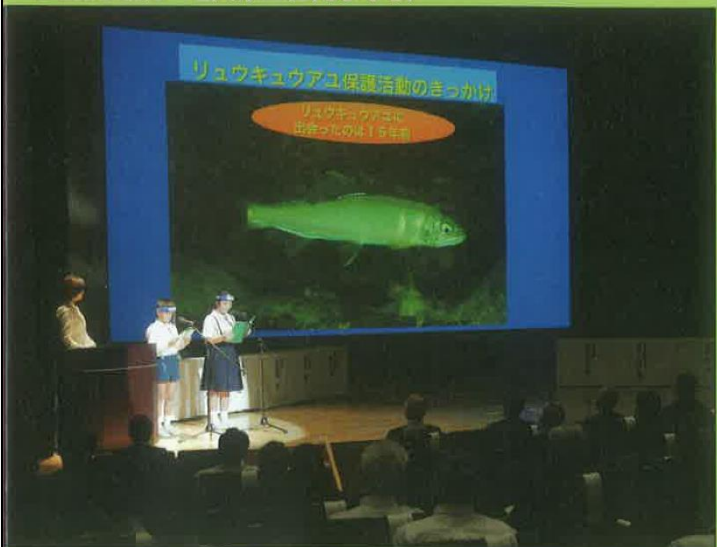
昔は沖縄にも生息していましたが、環境の悪化などにより、現在は奄美大島の特定の場所のみにしか生息していません。

ただ、現在も地球温暖化の影響によって水温が高くなっており、アユの数が少なくなってきたのが現状です。

例年、7月に講師の先生方をお招きして、「リュウキュウアユと奄美の川のおき物」について理解を深めたり、シユノールで役勝川上流の水の中をのぞきながら観察学習を行ったりしています。

繁殖期を迎える11月には、小さい石に卵を産み付けるアユが産卵しやすいよう、大きな石をどける整地作業も行っています。

観察学習のときにはアユが驚いて逃げてしまわないように、話し声や物音をたてないよう、そつとどぞいでいます。今年も、無事にアユの生息が確認できて、子供たちも喜んでいました。



式典で保護活動のきっかけを発表する

令和3年5月28日 南海日日新聞掲載



祝
文部科学大臣賞受賞



奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島
世界自然遺産登録
記念式典

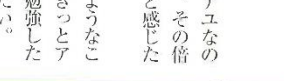
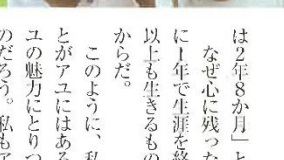
リュウキュウアユを守り、
広めることを住用から発信

人工繁殖や
卵の観察記録を発表

鹿児島県奄美市立住用小学校 (久永浩幸校長 児童数 19名)
〒894-1205 鹿児島県奄美市住用町大字役勝 27
TEL.0997-69-2109 FAX.0997-69-2101
URL = <http://www.city.amami.kagoshima.jp/sumiyou-e/index.html>

地元ラジオ局で発表

地元のラジオ局でリュウキュウアユの保護活動を発表する



川岸からリュウキュウアユを見つける児童たち



シュノーケルやゴーグルは活動の必需品



地元の川に住む生き物の観察



講師の先生に役勝川の生き物を教わる



どれた生き物を目の前で観察する児童たち

リュウキュウアユに近づいてじっくり観察

いただき、多くの称賛の声をいただくことができました。

保護活動に取り組んで

以下は児童が書いた文章です。

★「見つけたよ」(1年生) ※一部抜粋

「アユ、いるかな」初めてのリュウキュウアユ観察学習がありました。
「アユ、見れるかな」バスからおりると、ドキドキしました。

2年生のお兄さんやお姉さんといっしょに川のほうへゆつくりと歩いていきました。ちよろちよろちよろ水の音がきこえました。「リュウキュウアユがいるよ」又野さんが、川の中を指さしました。じいっと見ると、ひものようなものが動いていました。いっぱい見られました。

「なんだらう」と、はこめがねを使って、川の中をのぞきました。すると小さなリュウキュウアユがいました。おなかのところが、ちよこつと、白かったです。大きさは、わたしの指くらいでした。すごいなあと思いました。初めてリュウキュウアユを見ました。川の中をゴーグルで見えました。きれいでした。

★「アユの不思議」(6年生) ※一部抜粋
今年もリュウキュウアユの観察学習の季節がやってきた。梅雨が明けたこの時期、毎年のように講師の先生が、アユのことについて分かりやすく教えてくださる。
特に、心にこつたことは「ふつう寿命は1年だけれど、まれに1年以上生きる。最高

は2年8か月」ということだ。
なぜ心に残ったかと言うと、同じアユなのに1年で生涯を終えるものもあれば、その倍以上も生きるものもいて、不思議だと感じたからだ。
このように、私の知らない、驚くようなことがアユにはある。講師の先生は、きつとアユの魅力にとりつかれて、たくさん勉強したのでらう。私もアユを見守っていききたい。
10月には「世界自然遺産登録記念式典(鹿児島県主催)」が開催され、県知事や各市町村長が出席する中、市の代表校として本校が選ばれ、これまでの取組について発表をしました。このときの様子が各テレビ番組や新聞などで報道され、多くの方々を知ってもらった機会となりました。
自然と人との共生を考える
奄美大島は、今後、多くのすばらしい自然を守りながら、世界中の人にその魅力を知ってもらふことになっていくと思います。そんなとどうしても避けられない問題として、環境を維持しながら観光客を受け入れていくことがあります。
学校には、子供たちにこの2つのことを、バランスを取りながら、後世に伝えていくことを学ばせる責務があると思います。
そして、このような自然と人との共生は今後、国を超えて世界中で考えていかなければならない問題として、私たちのすぐ目の前に迫っています。